

# 山陰経済動向

生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

最近の国内経済については、一部に改善の遅れもみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、4月の公共工事請負金額は5カ月ぶりに前年を下回ったものの、持ち直しの動きがみられる(2016年4月～2017年3月累計の対前年比は8.2%増、全国4.1%増)。

設備投資は、2016年度は前年度を上回る見込みであり、2017年度は一転して前年度を下回る計画(当社企業動向調査3月の全産業設備投資額は、2016年度見込み対前年度比53.2%増、2017年度計画同26.7%減)。

住宅建設は、3月の新設住宅着工戸数が2カ月ぶりに前年を下回り、持ち直しの動きに陰りがみられる。

個人消費は、大型店売上高(4月)が6カ月連続で前年を下回った。一方、家電量販店販売額(3月)は5カ月ぶりに、乗用車新車登録台数(4月)は9カ月連続で、それぞれ前年を上回った。一部では持ち直しの動きもみられる。

生産は、3月の鉱工業生産指数(季調済指数)が、鳥取県は2カ月ぶりに前月を下回り、島根県は2カ月連続で前月を上回った。海外景気の緩やかな回復や競争力の高さなどを背景に一部では高水準の操業が続く業種がみられるものの、総じて横ばい圏内で推移している。






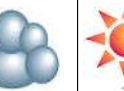

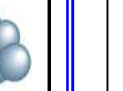





雇用情勢は、3月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.02ポイント上昇の1.53倍、島根県では前月差0.04ポイント上昇の1.58倍となった。引き続き改善している(全国は1.45倍)。



企業の業況判断は、足元(2016年下期)製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった(12.2 5.2)。先行き(2017年度上期)は、製造業が改善、非製造業が悪化を見込んでおり、全産業で悪化の見通し(当社企業動向調査3月)。

このように、当地の景気は、生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

先行きについては、個人消費の緩やかな持ち直し基調が続くなかで、生産が底堅く推移し、雇用情勢の改善傾向も続くことなどから、緩やかな持ち直しの動きが続くものと予想される。ただし、海外要因による影響には留意が必要である。

## 【当地景気の現状判断】

<全体>	1.公共投資	2.設備投資	3.住宅建設	4.個人消費	5.生産	6.雇用情勢	7.企業の業況判断
							
現状判断の5分類	明るい 	一部に明るさ 	停滞 	不振 	厳しい 		

注：  は先月より上方修正、  は同じく下方修正を示す。( ) は修正の一手手前の状況。